

8 景観・環境の保全と創造

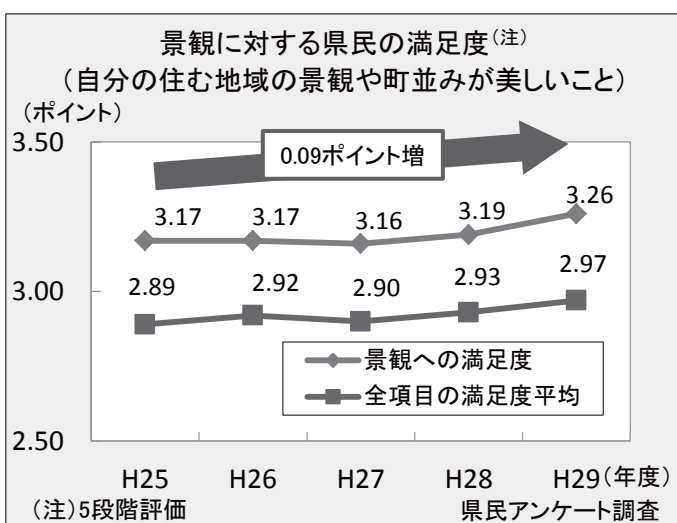
1 美しく風格のあるまちなみ景観の保全・創造

目指す姿

奈良ならではの“美しい自然・景観”や“快適な生活環境”を守り・創り・育む「きれいに暮らす奈良県スタイル」を構築・定着させ、「住んでよし」「訪れてよし」の地域づくりを目指します。

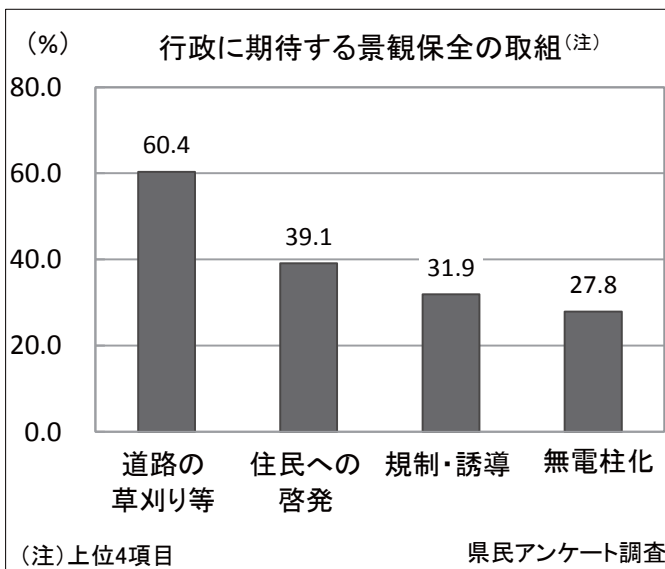
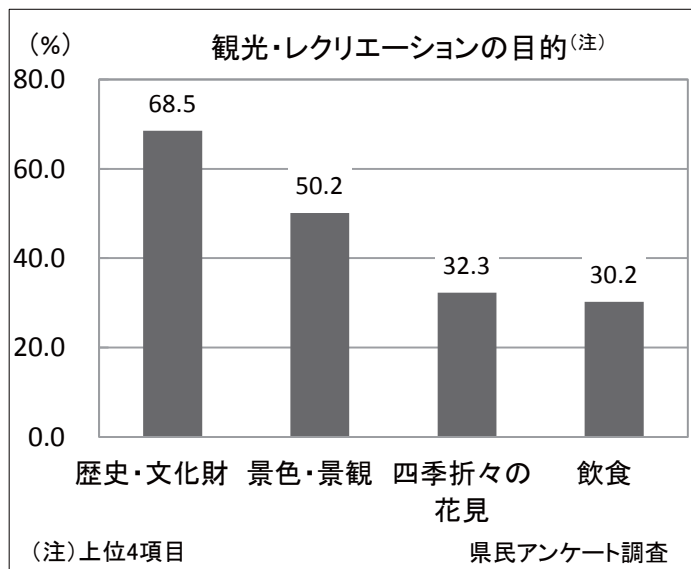
主担当部局(長)名
景観・環境局長 榎田 斉志

1. 政策目標達成に向けた進捗状況



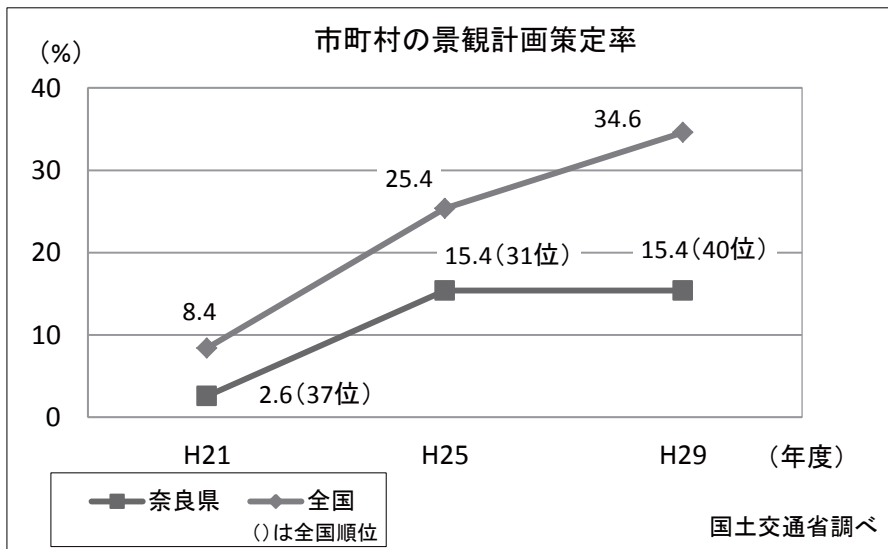
目	美しく風格のあるまちなみや多様で豊かな自然を守り・創り・育てます。
成	建築物や屋外広告物等の規制誘導による景観の保全、奈良県植栽計画に基づく「なら四季彩の庭」づくりの推進等、良好な景観を守り、創り、育て、活用するための各種取組を行った結果、県民アンケート調査における景観に対する県民の満足度(自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと)は3.26ポイントで、全項目の満足度平均と比べて0.29ポイント高くなっています。

2. 現状分析

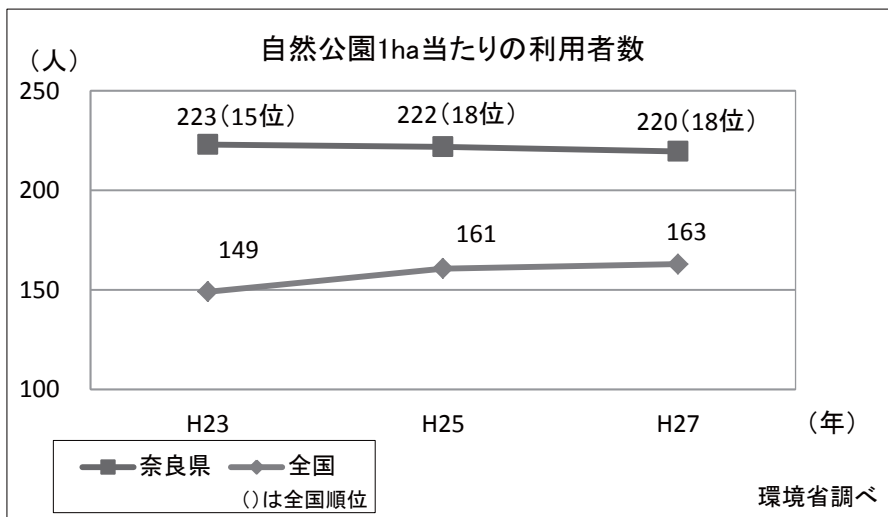


「景色・景観(美しい景色や風情ある景観)」を観光・レクリエーションの目的として考える県民の割合は「歴史・文化財」の次に高くなっています。(→戦略1)

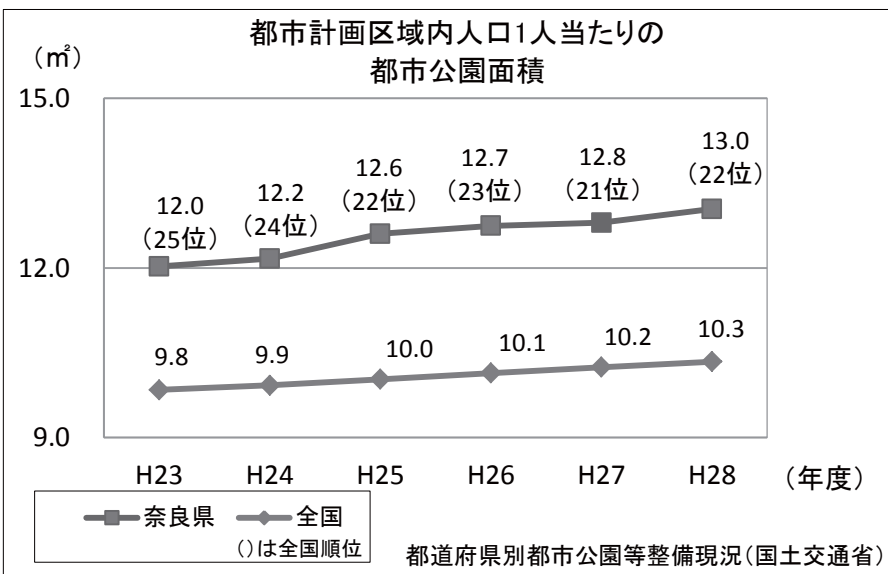
県民が行政に期待する景観保全の取組として、「道路の草刈り等(道路沿いの草刈り等の公共施設の維持管理)」が60.4%と最も高く、続いて「住民への啓発」、「規制・誘導」となっています。(→戦略1)



市町村の景観計画策定率は、平成21年度から上昇していますが、全国平均と比べて低い状態が続いています。(→戦略1)



自然公園1ha当たりの利用者数は、近年一定の水準を維持しており、全国平均より高い状態が続いています。(→戦略1)



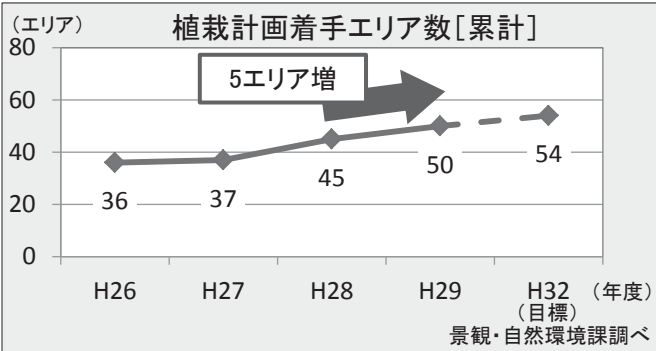
都市計画区域内人口1人当たりの都市公園面積は順調に増加し、全国平均より高い状態が続いています。(→戦略1)

3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

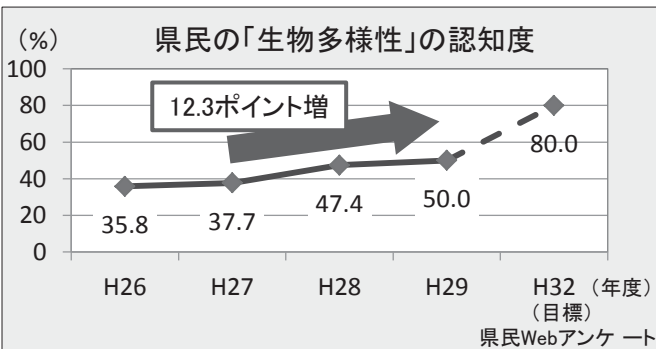
戦略1 植栽の整備等により奈良らしい景観づくりを進めるとともに、希少野生動植物の保護等により生物の多様性を守ります。

主担当課(長)名 景観・自然環境課長 伊賀 正彦

戦略目標	①平成32年度までに、奈良県植栽計画に位置付けた54エリアすべての整備に着手します。(H28年度着手済みエリア:45エリア) ②平成32年度までに、県民の「生物多様性」の認知度を80%にします。(H27年度:38%)
------	---



目標	平成32年度までに、奈良県植栽計画に位置付けた54エリアすべての整備に着手します。(H28年度着手済みエリア:45エリア)
成果	各エリア別の県事業の着実な推進及び市町村事業の支援を行ったことにより、50エリアで植栽整備に着手しました。



目標	平成32年度までに、県民の「生物多様性」の認知度を80%にします。(H27年度:38%)
成果	パネル展示等のイベントを実施するなど、県民への生物多様性の周知活動を行ったことにより、平成29年度の県民の「生物多様性」の認知度は、前年度と比べて2.6ポイント上昇し、50%になりました。

主な取組指標等

景観法に基づく建築物外観等への規制誘導(①)		
景観法に基づく届出等の件数		
131件 (H24年度)	↓ 32.1%	89件 (H29年度)

景観資産の登録と活用(①)		
視点場へのパネル・標柱を設置した景観資産[累計]		
15カ所 (H24年度)	↑ 34カ所	49カ所 (H29年度)

景観サポーターとの協働(①)		
活動しているサポーターの割合		
35.3% (H24年度)	↑ 26.2 ポイント	61.5% (H29年度)

「なら生物多様性保全ネットワーク」の強化・充実(②)		
奈良生物多様性保全ネットワークに参画するNPO等団体数[累計]		
79団体 (H26年度)	↑ 7団体	86団体 (H29年度)

希少野生動植物の保護(②)		
特定希少野生動植物の保護管理事業計画策定数[累計]		
2件 (H24年度)	↑ 6件	8件 (H29年度)

自然公園の利用促進(②)		
自然公園利用者数		
14.1千人 (H23年)	↓ 5.7%	13.3千人 (H28年)

数値で表せない成果

「なら四季彩りの庭」のホームページを開設し、植栽計画の整備内容や目指す姿、成果を「見える化」しました。(平成30年度 ホームページを県民や市町村、地元団体等への情報発信・働きかけに活用し、協働の取組を促進)(①)

中和幹線沿道の5市町と、屋外広告景観向上に向けた協定である「中和幹線沿道の屋外広告景観向上に関する協定」を締結しました。(平成30年度 協定に基づき、市町で規制条例規則が施行された後に、市町と連携して不適格広告物の是正・誘導に取り組む予定)(①)

4. 平成31年度に向けた課題の明確化

＜政策目標達成に向けた主な進捗状況＞
 建築物や屋外広告物等の規制誘導による景観の保全、奈良県植栽計画に基づく「なら四季彩の庭」づくりの推進等、良好な景観を守り、創り、育て、活用するための各種取組を行った結果、県民アンケート調査における景観に対する県民の満足度(自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと)は3.26ポイントで、全項目の満足度平均と比べて0.29ポイント高くなっています。

＜戦略目標達成に向けた主な進捗状況＞
 各エリア別の県事業の着実な推進及び市町村事業の支援を行ったことにより、50エリアで植栽整備に着手しました。

＜奈良県の持っている強み＞
 1 歴史文化遺産や自然環境に恵まれた美しい景観(国宝・重要文化財:1,324件・全国3位、史跡名勝天然記念物:145件・全国1位)
 2 個別の法規による広範囲にわたる景観規制地域(都市計画区域内の風致地区面積割合:全国1位、県土に占める自然環境保全地域等面積:全国4位)
 3 平成24年度に奈良県植栽景観整備指針を策定
 4 平成25年度に奈良県植栽計画(「なら四季彩の庭」づくり)を策定
 5 「きれいに暮らす奈良県スタイル」推進協議会による企業・団体・市町村との連携・協働
 6 平成29年度に中和幹線沿道の5市町と屋外広告景観向上に向けた協定を締結

＜奈良県の抱えている弱み＞
 7 景観計画を策定している市町村が少ない(39市町村中6市町村)
 8 奈良の玄関口となる駅周辺の景観整備が十分ではない

＜奈良県への追い風＞
 a 観光・レクリエーションの目的として、「景色・景観」を挙げる県民が多い(県民アンケート。全項目中第2位)
 b 道路沿いの草刈りについて多くの県民が行政に期待
 c 国が全国の半数の市町村で景観計画を策定することを目標に設定(H28.3.30 明日の日本を支える観光ビジョン)

＜奈良県への向かい風＞
 d 市街地・幹線道路沿道における派手な色彩の建築物や屋外広告物等により地域の魅力が低下

＜強みで追い風を活かす課題＞
 [重要課題]「なら四季彩の庭」づくりの推進(1,2,3,4,5,a,b)

＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞
 市町村の景観計画の策定促進(7,a,c)

＜強みで向かい風を克服する課題＞
 [重要課題]沿道市町と協働した中和幹線沿道における屋外広告物対策(1,5,6,d)

＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞
 [重要課題]奈良の玄関口となる駅周辺の景観整備(8,d)

5. 平成28年度の評価を踏まえ、平成30年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
「なら四季彩の庭」づくりの推進(戦略1)	植栽計画の整備内容や目指す姿、成果を「見える化」するホームページを作成し、県民や市町村、地元団体等への情報発信・働きかけに活用して、協働の取組を促進することとしました。

6. 重要課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
「なら四季彩の庭」づくりの推進(戦略1)	奈良県植栽計画に基づき、各種の取組を推進します。併せて、「なら四季彩の庭」づくりのホームページ等を通じ、県民や市町村、地元団体等への情報発信・働きかけに活用し、協働の取組を促進します。

強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
沿道市町と協働した中和幹線沿道における屋外広告物対策(戦略1)	沿道5市町で改正した屋外広告景観向上に必要な規則に基づき、不適格広告物の是正・誘導を県と沿道市町で連携して行います。

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
奈良の玄関口となる駅周辺の景観整備(戦略1)	景観整備に必要なガイドラインを策定し、関係者との合意と事業化の促進を進めます。

